



阪南大学学会

学生懸賞論文

論文の書き方

CHECK LIST



論文の書き方

学生懸賞論文応募にあたって

この冊子は、阪南大学学会が募集する「学生懸賞論文」論文部門の応募チェックポイントをリスト形式で掲載したもので、審査委員会が審査するとき重要視する項目を列挙しています。

テーマ・分野によっては絶対条件にならない項目もありますが、大体これらの項目に基づき審査されると考えていただいて結構です。

論文の体裁および構成、テーマの設定、注記・参考文献の表記など自分でチェックできるポイントを具体的に掲載しています。

論文を作成する際、以下の各項目の□にチェック（✓）を入れて確認してください。

1 … 論文の体裁を備えていますか

- 問題意識を明確にしていますか。
- オリジナリティ（他の論文とは違った自己の見解）を追求していますか。
- 自分の文章と引用した他人の文章とを明確に区別していますか。
- 全体的に文体を統一していますか（語尾が「です・ます」ではなく、「である」となっていますか）。
- 誤字・脱字・変換ミスはありませんか。また、文意が通じますか。
- 論文としての形式になっていますか（単なるデータ・資料の羅列や意味がわかりにくい結論になっていませんか）。
- unnecessary記号（必要でないところに！や？などをつける等）や口語文のような表現を使用していませんか。
- 一般的に使用されている意味以外で「用語」を使用する場合はきちんと定義していますか。

2 … テーマは適切ですか

- テーマが大きすぎませんか。
- タイトルはテーマを反映していますか。

3 … 論文構成が以下のようになっていますか

はじめに

- 自分の問題意識を述べ、課題（論点）の設定が的確に行われていますか。
- その課題を解明する手順を明らかにしていますか。

本論

- 課題（論点）に関する専門領域について概観・整理していますか。
- 論じる事柄に前提条件がある場合は、きちんと述べられていますか。
- 「はじめに」で述べた問題意識に基づいて、事前に示した手順によって論述できていますか。
- データ・資料などを用いた場合は、論述内容と適合したものとなっていますか。
- 略称や略号などは、初めて出てきたときに正式名称を示していますか。
- 新しい概念・用語の定義をきちんとしていますか。

章・節・項

- 章は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、…、節は1、2、3、…、項は1)、2)、3)、…で統一する。
細目については、(1)、(2)、(3)、①、②、③、a、b、c、などを適宜用いる。

まとめ

- 全体のまとめとしてオリジナリティを持った結論を導いていますか。
 まとめは簡潔に要領よく述べられていますか。
 「はじめに」で設定した問題点と「本論」「まとめ」との間で互いに矛盾していませんか。
 謝辞を述べる場合には、きちんと段落がえしていますか。

注・参考文献

- 注を付ける場合、引用部分を「」でくくり注番号を上付きカタカッコにして、論文の末尾に一括して明記していますか。

例1 (本文中)

「人事考課制度は本来『人事制度』の中核的制度として『昇進・昇格・昇級制度』と密接に関連して運用されてきた」¹⁾とされている。

(末尾)

- 1) 高橋 進『人事と給与こう変わる』研修社、1995年、142ページ。
2) 坂井昭夫『日本経済摩擦と政策協調』有斐閣、1991年、59-60ページ。

例2 上記以外にも「行頭2字下げ」という方法もあります。

■ 1文字空白 ■ 2文字空白

- ゲーテは『ファウスト』の中で、こう記している。
■ ■ 生きているものを確認し、それを記述しようとするものは、まず精神を度外視してかかる。
■ ■ たとえその時に部分を手に入れたとしても、残念なことにそこには精神的な鞆帯となるもの
■ ■ が欠けている。¹⁾

- 本文中で論じきれなかった論点に関して補足的に述べる場合、あるいは専門用語の説明を付ける場合にも注記表記していますか。
 文章を直接引用するのではなく、他人の文章を要約して引用する場合には、なるべく一段落以内にまとめて注記表記していますか。
 引用文献・参考文献の表記方法は次の通りになっていますか。

a 著書の場合

注番号) 著者名『書名』発行所、発行年、該当ページ。

- 1) 大越康夫『アメリカ最高連邦裁判所』東信社、2002年、6-7ページ。

b 雑誌掲載論文の場合

注番号) 著者名「論文名」『雑誌名』巻号、(発行所)、発行年月日、該当ページ。

(誌名から発行所が推測できるときは省略してもよい)

- 2) 乙政正太「経営者報酬決定における予想利益の役割」『会計プロGRESS』第4号、2003年9月、35-45ページ。

c 編著本所収論文の場合

注番号) 著者名「論文名」(編著者名)『書名』(発行所)、発行年、該当ページ。

(誌名から編集者・発行所が推測できるときは省略してもよい)

- 3) 杉本昭七「世界市場の重層化と貿易の変化」本山美彦編『グローバリズムの衝撃』東洋経済新報社、2001年、96-99ページ。

d 新聞の場合

注番号)『新聞名』発行年月日(朝・夕刊)。

4)『日本経済新聞』2015年9月1日(夕刊)。

e 図表の場合

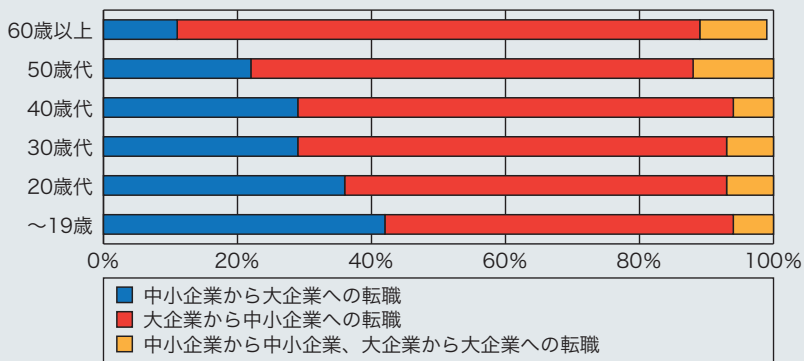
表番号及び見出しは表の上へ(例1)、図番号及び見出しは図の下へつけ(例2)、出所は図表の下部へ明記します。出所の示し方は、注番号がないだけで、a~dと同じように記します。

例1 表1 2015年度専門店ランキング(家具)(▲は減、-は無回答)

順位	前年度	社名・団体名	全店舗年間売上高(百万円)	前年度比増減率(%)	経営利益(百万円)	期末店舗数
1	1	ニトリホールディングス(ニトリ)	417,285	7.7	67,929	346
2	2	大塚家具	55,501	▲1.3	▲242	16
3	4	東京インテリア家具	52,015	12.0	5,072	36
4	3	山新	50,381	▲7.6	-	38
5	5	アクタス	15,522	12.6	-	24
6	6	安井家具(ファニチャードーム)	11,524	0.4	-	9
7	7	マナベインテリアハーツ	8,390	10.1	423	12
8	8	服部家具センター	7,766	6.0	265	23
9	9	ビッグウッド	4,573	4.7	79	43
10	10	山下家具店	3,922	1.6	82	6

出所)『日経流通新聞』2015年7月8日より作成。

例2



出所)中小企業庁編『中小企業白書』各年度版より作成。

図1 年齢別規模間転職状況(製造業)

f ホームページ、テレビ番組、インタビュー等の場合

URL「ホームページ名」(採録日: 年 月 日)

放送局「テレビ番組名」(放送日: 年 月 日)

例

<http://www.hannan-u.ac.jp/>「阪南大学」(採録日: 2015年4月30日)

<http://www.hannan-u.ac.jp/○○○>「阪南大学 教員のページ○○○○」(採録日: 2015年4月30日)



g 参考文献

参考文献は論文を作成するときに引用、参照等で利用した文献をあらためて一覧にして示すものです。この参考文献における文献の表記方法も上で述べた方法に準じます。

文献をならべる順番は、まず和文献の著者名をアイウエオ順とし、次に欧文献の著者名をアルファベット順とします。また、ホームページは文献の末尾にまとめて表記してください。

例

参考文献

石原享一編『中国経済と外貨』アジア経済研究所，1996年。
伊藤忠商事調査部編『GLOBAL SENSOR』，1997年12月。
岡本義行編『日本企業の技術移転』日本経済評論社，1998年。
日本貿易振興会『世界と日本の海外直接投資』，1998年。
丸山恵也編『日本企業のアジア戦略』中央経済社，1995年。
<http://www.hannan-u.ac.jp/>「阪南大学」（採録日：2015年4月30日）
<http://www.jetro.go.jp/>「日本貿易振興機構」（採録日：2015年7月21日）

4 ... 図表・資料

- 自分の論理展開にとって必要かつ適切な図表を使用していますか。
- 孫引き（原資料からではなく、他の論文や文献に引用された部分の引用）ばかりになっていませんか。
- 図表・資料の出典についても、3の **注・参考文献** に準じて出所を明記していますか。

5 ... 形式

応募論文は次の形式を満たしているかどうか必ず確認してください。

アブストラクト（概要）

- アブストラクトは目次・本文（図表・注を含む）・参考文献とは別々にしていますか。
- アブストラクトは1,000字程度で収まっていますか。
- アブストラクトにタイトル・学籍番号・氏名が明記されていますか。

目次

- 目次はきちんと付けていますか。
- 目次はアブストラクト・本文（図表・注を含む）・参考文献とは別々にしていますか。
- 目次は内容を的確に表していますか。
- 目次と本文中の章・節が正しく対応していますか。
- 目次にタイトルが明記されていますか。



理系論文の書き方

理系論文も基本的なチェックポイントは論文の書き方（1-4ページ）と同じですが、章・節・項および「参考文献」の形式が若干異なります。

論文の書き方の各項目と合わせて、以下の□にチェック（✓）を入れて確認してください。

1 ... 章・節・項

章・節・項は、次の通りになっていますか。

章・節・項はアラビア数字を使い、章のあとにはピリオドを付け、節の場合はピリオドのあとに続けて表示します。

例 はじめに
1. 遺伝的アルゴリズム (GA) とは
1.1 生物の進化
おわりに

2 ... 注・参考文献

注・参考文献

欧文表記については各指導教員の指示を受けてください。

引用部分に注を付ける場合、注番号を上付きカタカッコにして、論文の末尾に一括して明記していますか。

例 (本文中)

ファジィ理論¹⁾は、if-thenルールを用いて、……する方法である。

(末尾)

- 1) 菅野道夫・田中一男「ファジィ集合の提案とその回帰分析への応用」『日本ファジィ学会誌』Vol.4, No.6, 25-31ページ (1985)
- 2) 銅谷賢治「神経回路網における記憶学習」『第32回知能システム講演会発表論文集』, 1230-1231ページ (1987)

著書・論文・データベース全体を参照している場合、本文中の注番号と参考文献の注番号が合致していますか。

本文中で論じきれなかった論点に関して補足的に述べる場合、あるいは専門用語の説明を付ける場合にも注記表記していますか。

引用文献・参考文献の表記方法は次の通りになっていますか（和欧共通）。

a 著書の場合

注番号) 著者名『書名』発行所, 該当ページ (発行年) (英文の場合pp.またはp.)

- 1) 坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川書店, 1-10ページ (2002)

b 雑誌掲載論文の場合

注番号) 著者名「論文名」『雑誌名』巻号, 該当ページ (発行年)

- 2) 菅野道夫・田中一男「ファジィ集合の提案とその回帰分析への応用」『日本ファジィ学会誌』Vol.4, No.6, 25-31ページ (1985)

c 学会発表の場合

注番号) 著者名「論文名」編著者名『書名』発行所, 該当ページ (発行年)

- 3) 銅谷賢治「神経回路網における記憶学習」『第32回知能システム講演会発表論文集』, 1230-1231ページ (1987)



d 新聞の場合

注番号『新聞名』発行年月日（朝・夕刊）

4) 『日本経済新聞』2015年8月5日（夕刊）

e 図表の場合

引用した図表がある場合は下部に出所を表記します。その場合の出所の示し方は、注番号がないだけで、a～dと同じように表記します。また、オリジナルデータ・検証結果を示す場合、表は上部に通し番号と見出しを、図は下部に通し番号と見出しを付けます。引用した図表の場合は、論文の書き方3ページ（e. 図表の場合）に準じます。

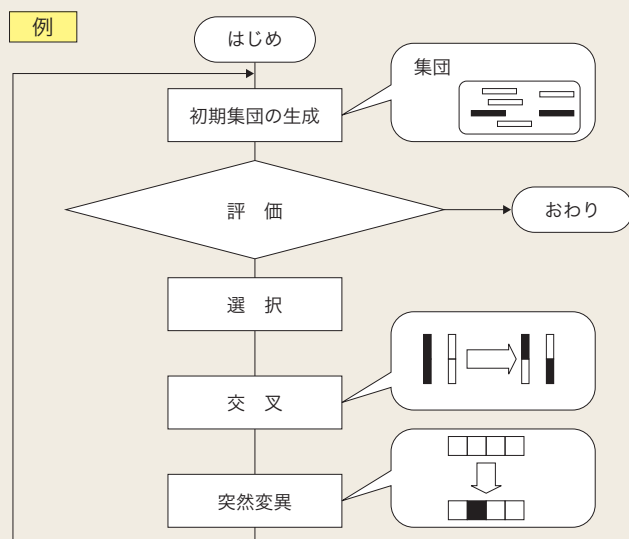


図1 単純GA (SGA) のモデル

f ホームページ、テレビ番組、インタビュー等の場合

URL「ホームページ名」（採録日： 年 月 日）

放送局名「テレビ番組名」（放送日： 年 月 日）

例

<http://www.hannan-u.ac.jp/>「阪南大学」（採録日：2015年4月30日）

<http://www.hannan-u.ac.jp/〇〇〇>「阪南大学 教員のページ〇〇〇〇」（採録日：2015年4月30日）

g 参考文献

参考文献は論文を作成するときに引用、参照等で利用した文献を番号を付けて末尾に一括して示すものです。

また、同一文献を本文中で参考にした場合は、同じ番号を付けます。文献を並べる順番は、まず和文献の著者名をアイウエオ順とし、次に欧文献の著者名をアルファベット順とします。必ず本文とは別に添付してください。また、ホームページは文献の末尾にまとめて表記してください。

例

（本文中）

「……。ファジィ理論¹⁾は、if-thenルールを用いて、……。する方法である。また、Mamdani^{3), 6)}は、1974年にファジィ制御を提案している。ニューラルネット^{2), 4), 5)}とは、……。である。」

（末尾）

参考文献

- 1) 菅野道夫・田中一男「ファジィ集合の提案とその回帰分析への応用」『日本ファジィ学会誌』Vol.4, No.6, 25-31ページ（1985）
- 2) 銅谷賢治「神経回路網における記憶学習」『第32回知能システム講演会発表論文集』, 1230-1231ページ（1987）
- 3) 坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川書店, 1-10ページ（2002）
- 4) Hopfield, J. J., Neurons Computer, Orions Press（1990）
- 5) Cottrell, M., A Proposal of Stability in Memory Networks, Proc. of 2nd Neural Network Conference, pp.25-27（1995）
- 6) Mamdani, M., A Design of Fuzzy Logic Controller, Information Science, Vol.16, No.8, pp.105-109（1974）

ここで、1)と6)は論文、3)と4)は書籍、2)と5)は学会発表の表記例である。



研究活動における不正行為に注意！

昨今、研究者による研究活動上の不正行為が多数報道され、学生の皆さんも目にする機会があると思いますが、学生が論文を書く場合も同様の注意が必要です。例えばネットで見つけた他人の文章をコピーして、引用も示さず自分の文章として学生懸賞論文に応募することは「盗作」であり、研究活動上の不正行為にあたります。本学でも、以下の「捏造」「改ざん」及び「盗用」を代表的な研究活動上の不正行為と考えていますので、十分に注意してください。

捏 造

存在しないデータ、研究結果等を作成すること。

例) 実際に調査を行わず、あるいは期待した調査結果が得られなかったため、架空のデータを作成して、その調査結果を自身の論文に使用した。

改ざん

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

例) 調査結果に思うような結果が得られなかったため、都合の悪い調査データを別の調査で得られたデータに置き換えて発表した。

盗 用

他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること。

例) インターネットで見つけた他人の論文の一部をコピーして、出所を明らかにせず、自身の論文としてそのまま使用した。

悪質な不正行為は、本人が処罰の対象となるだけでなく、指導教員等にも迷惑が及ぶ場合があります。